

入札公告（建設工事）

次のとおり一般競争入札に付します。

平成27年9月25日

分任支出負担行為担当官
関東地方整備局
甲武営繕事務所長
岡野 雄

記

1. 工事の概要

- (1) 工事名 日本社会事業大学体育館他（15）建築改修その他工事
（電子入札対象案件）
- (2) 工事場所 東京都清瀬市竹丘3-1-30
- (3) 工事内容 本工事は、日本社会事業大学竹丘校舎の体育館の屋根防水の改修などを行う工事である。
敷地面積 60,510㎡
構造：鉄筋コンクリート造 地上2階建
延べ面積：約1,900㎡
用途：体育館
工事種目：屋根改修一式、建具改修一式、電気設備改設一式
- (4) 工期 契約締結の翌日から平成28年2月29日まで
- (5) 資料 ①別冊図面 ②その他
- (6) 本工事は、入札時に「企業・配置予定技術者の技術力」について記述した、競争参加資格確認申請書（以下「申請書」という。）及び競争参加資格確認資料（以下「資料」という。）を受け付け、価格と価格以外の要素を総合的に評価して落札者を決定する総合評価落札方式（施工能力評価型Ⅱ型）の工事である。また、品質確保のための体制その他の施工体制の確保状況を確認し、施工内容を確実に実現できるかどうかについて審査し、評価を行う施工体制確認型総合評価落札方式の試行工事である。また、本工事は、契約締結後に施工方法等の提案を受け付ける契約後VE方式の試行工事である。
- (7) 本工事は工事希望型競争入札方式を一般競争入札方式に拡大した試行工事である。
- (8) 本工事は、入札参加者から見積りの提出を求める「見積活用方式」の試行工事である。予定価格の算定に必要な項目について、見積価格を記載した見積書及び根拠資料の提出を求め、その妥当性が確認できた見積価格を予定価格作成の為の参考とする工事である。
- (9) 本工事は、資料の交付、申請書及び資料の提出、入札を電子入札システムで行う対象工事である。ただし、電子入札システムによりがたいものは、発注者の承諾を得て紙入札方式に代えるものとする。なお、紙入札方式の参加承諾に関しては甲武営繕事務所総務課に紙入札方式参加承諾願を郵送又は託送（書留郵便等、記録の残るものに限る。）により提出するものとする。詳細は入札説明書による。
- (10) 本工事は完成時の工事成績評定の結果が65点未満であった場合、当該工事成績評定通知書の通知月から起算して1年間に行われる関東地方整備局（港湾空港関係

を除く。)の発注する工事の入札において、総合評価落札方式の加算点等を減ずる
試行対象工事である。ただし、事故減点は原則適用外とする。

- (11) 本工事は、調査基準価格を下回った価格をもって契約する場合においては、入札日から過去2年以内に65点以上70点未満の工事成績評定を通知された関東地方整備局が発注し完成した工事がある者に対して、現場代理人と主任技術者の兼務を認めないこととする試行対象工事である。
- (12) 本工事は、調査基準価格を下回った価格をもって契約する者に対して実施する工事完成後の工事コスト調査において、工事コスト調査結果の内容と、低入札調査時の重点調査の内容が著しく乖離した場合においては、施工体制台帳の確認やヒアリングの実施等を行い、乖離理由を検討したうえで場合によっては工事成績評定を減ずる試行対象工事である。なお、工事コスト調査の内訳については、工事コスト調査終了後関東地方整備局又は甲武営繕事務所のホームページにより公表する。
- (13) 本工事は、本工事の完成時に70点以上の工事成績評定を通知された場合、今後発注される「難工事施工実績評価対象工事」の総合評価の評価項目において加点対象とする「難工事指定」の試行工事である。
- (14) 本工事は、過去に受注した「難工事指定」の試行対象工事において、完成時の工事成績評定が70点以上であった場合、本工事の総合評価の評価項目において加点対象とする「難工事施工実績評価対象工事」の試行工事である。
- (15) 本工事は、過去に受注した「難工事指定」の試行対象工事について「難工事功労表彰」を受けた場合に、本工事の総合評価の評価項目において加点対象とする「難工事功労表彰評価」の試行工事である。
- (16) 本工事は、2. 競争参加資格(4)に規定する要件を、支店又は営業所を有することをもって満たしたうえで、落札決定者となった場合において、落札決定後契約締結前に当該支店又は営業所における専任技術者の配置状況及び当該支店又は営業所の運営状況が確認できる資料の提出を求める対象工事である。詳細は入札説明書による。
- (17) 本工事は、現場の問題発生に対して迅速な対応を行う「ワンデーレスポンス」を実施する工事である。

2. 競争参加資格

- (1) 予算決算及び会計令(昭和22年勅令第165号)(以下「予決令」という。)第70条及び第71条の規定に該当しない者であること。
- (2) 関東地方整備局(港湾空港関係を除く。)平成27・28年度一般競争(指名競争)入札参加資格業者のうち建築工事D、C又はB等級に認定されている者であること(会社更生法(平成14年法律第154号)に基づき更生手続開始の申立てがなされている者又は民事再生法(平成11年法律第225号)に基づき再生手続開始の申立てがなされている者については、手続開始の決定後、関東地方整備局長(以下「局長」という。)が別に定める手続きに基づく一般競争(指名競争)入札参加資格の再認定を受けていること。)
- (3) 会社更生法に基づき、更生手続開始の申立てがなされている者又は民事再生法に基づき再生手続開始の申立てがなされている者((2)の再認定を受けた者を除く。)でないこと。
- (4) 東京都内に建設業法に基づく本店、支店又は営業所を有すること。(経常建設共同企業体にあつては、経常建設共同企業体協定書第3条に記載されている事務所の

所在地が東京都内であること。ただし、事務所の所在地が当該経常建設共同企業体の構成員の建設業法に基づく本店、支店、営業所の場合に限る。）

- (5) 平成12年4月1日以降に、関東地方整備局管内で元請けとして完成・引渡しが完了した下記(ア)又は(イ)いずれかの要件を満たす同種工事の施工実績を有すること。(共同企業体の構成員としての実績は、出資比率が20%以上の場合のものに限る。(ただし、異工種建設工事共同企業体については適用しない。))また、軽微なもの(請負金額が500万円未満の工事)は除く。

(ア)

鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造又は鉄骨造の建築物の屋根改修工事

(イ)

鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造又は鉄骨造の建築物の建築一式(躯体、外装、内装の全てを含む新築又は増築)工事

ただし、申請できる同種工事の施工実績は1件のみとする。

なお、当該実績が大臣官房官庁営繕部所掌の工事又は地方整備局所掌の工事(旧地方建設局所掌の工事を含み、港湾空港関係を除く。)に係るものにあつては、評定点合計(工事成績評定通知書の記4.成績評定①の評定点(評定点が修正された場合にあつては、修正評定点)をいう。)が65点未満のものを除く。

経常建設共同企業体にあつては、構成員のそれぞれが上記の施工実績を有すること。

また、異工種建設工事共同企業体としての実績は、協定書による分担工事の実績のみ同種工事の実績として認める。

- (6) 関東地方整備局(港湾空港関係を除く。)発注工事で、当該工事工種における過去2年間の工事成績評定点の平均点が2年連続で60点未満でないこと。

- (7) 次に掲げる基準を満たす主任技術者を当該工事に配置できること。

複数の技術者を申請する場合は、申請する全ての者について次に掲げる基準を満たしていること。

① 主任技術者は、1級建築施工管理技士、2級建築施工管理技士又はこれらと同等以上の資格を有する者であること。詳細は入札説明書による。

② 1人の者が、過去に、元請けとして完成・引渡し完了した下記(ア)又は(イ)いずれかに掲げる同種工事に従事した経験を有する者であること。(共同企業体の構成員としての経験は、出資比率20%以上の場合のものに限る。(ただし、異工種建設工事共同企業体については適用しない。))また、軽微なもの(請負金額が500万円未満の工事)は除く。

(ア)

鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造又は鉄骨造の建築物の屋根改修工事

(イ)

鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造又は鉄骨造の建築物の建築一式(躯体、外装、内装の全てを含む新築又は増築)工事

ただし、申請できる同種工事の工事経験は1件のみとする。

なお、当該工事経験が平成8年4月1日以降に完成した大臣官房官庁営繕部所掌の工事又は地方整備局所掌の工事(旧地方建設局所掌の工事を含み、港湾空港関係を除く。)に係るものにあつては、評定点合計(工事成績評定通知書

の記4. 成績評定①の評定点（評定点が修正された場合にあっては、修正評定点）をいう。）が65点未満のものを除く。

経常建設共同企業体にあつては、構成員のうち1社の主任技術者が上記の工事経験を有していればよい。

また、異工種建設工事共同企業体としての経験は、協定書による分担工事における経験のみ同種工事の経験として認める。

③ 配置予定の主任技術者にあつては直接的かつ恒常的な雇用関係が必要であるので、その旨を明示することができる資料を求めることがあり、その明示がなされない場合は入札に参加できないことがある。（詳細は入札説明書による。）

- (8) 本工事に事業協同組合として申請書及び資料を提出した場合、その構成員は、単体として申請書及び資料を提出することはできない。
- (9) 経常建設共同企業体の構成員は、当該工事に対応する建設業種の許可を有してからの営業年数が3年以上あること。
- (10) 申請書及び資料の提出期限の日から開札の時までの期間に、局長から工事請負契約に係る指名停止等の措置要領（昭和59年3月29日付け建設省厚第91号）に基づく指名停止を受けていないこと。
- (11) 上記1. に示した工事に係る設計業務等の受託者又は当該受託者と資本若しくは人事面において関連のある建設業者でないこと（入札説明書参照）。
- (12) 入札に参加しようとする者の間に資本関係又は人的関係がないこと。（資本関係又は人的関係がある者のすべてが共同企業体の代表者以外の構成員である場合を除く。）（入札説明書参照）
- (13) 警察当局から、暴力団員が実質的に経営を支配する建設業者又はこれに準ずるものとして、国土交通省発注工事等からの排除要請があり、当該状態が継続している者でないこと。
- (14) 工事請負契約に基づく工事関係者に関する措置請求に受注者が従わないこと等請負契約の履行が不誠実でないこと。
- (15) 元請企業が優良下請企業を活用するにあたり、対象となる優良下請企業は当該工事の元請企業として入札参加することはできない。元請企業は活用する優良下請企業と別途「優良下請企業の活用に関する確認書」（以下確認書）を締結し必ず確認書を添付すること。なお、確認書を添付した場合でも、元請企業が活用する優良下請企業が当該工事に元請けとして参加した事実が確認された場合、元請企業及び元請企業として参加した優良下請企業の双方を欠格とする。

3. 総合評価に関する事項

(1) 落札者の決定方法

入札参加者は「価格」、「企業・配置予定技術者の技術力」並びに「施工体制」をもって入札に参加し、次の1）、2）の要件に該当する者のうち、（2）総合評価の方法によって得られた数値（以下「評価値」という。）の最も高い者を落札者とする。

ただし、落札者となるべき者の入札価格によっては、その者により当該契約の内容に適合した履行がなされないおそれがあると認められるとき、又はその者と契約を締結することが公正な取引の秩序を乱すこととなるおそれがあるとき、著しく不相当であると認められるときは、予定価格の制限の範囲で発注者の定める最低限の要

求要件を全て満たして入札した他の者のうち、評価値の最も高い者を落札者とする
ことがある。

なお、落札者となるべき者の入札価格が予決令第85条に基づく調査基準価格を下
回る場合は、入札説明書に示す予決令第86条の調査を行うものとする。

- 1) 入札価格が予定価格の制限の範囲内であること。
- 2) 評価値が、標準点を予定価格で除した数値（「基準評価値」）に対して下回ら
ないこと。

(2) 総合評価の方法

- 1) 「標準点」を100点とし、「施工体制評価点」の最高点を30点、及び「加
算点」の最高点を40点とする。
- 2) 「加算点」の算出方法は、予定価格の制限の範囲内の入札参加者のうち、下記
①②の評価項目毎に評価を行った結果、得られた「評価点の合計値」を「加算
点」として与える。また、「施工体制評価点」は下記③の項目を評価して与える。
① 企業の技術力
② 配置予定技術者の技術力
③ 施工体制（施工体制評価点）
- 3) 「標準点」は、入札説明書等に記載された要求要件を実現できると認められる
場合に100点を与える。
- 4) 価格と価格以外の要素がもたらす総合評価は、入札参加者の「標準点」と、上記
によって得られる「加算点」及び「施工体制評価点」の合計を、当該入札者の入
札価格で除して得た評価値をもって行う。

(3) (2) ①②③の評価項目の詳細は入札説明書による。

(4) 優良下請企業を活用する、登録基幹技能者等を活用すると申請したにもかかわらず、
活用しなかった場合、受注者の責により適用されていないと判断された場合は、
ペナルティとして、工事成績評定を未実施の評価項目毎に3点減ずる。

4. 入札手続等

(1) 担当部局

〒190-0014 東京都立川市緑町3567
関東地方整備局 甲武宮繕事務所 総務課
電話 042-529-0011

(2) 入札説明書の交付期間、場所及び方法

入札説明書を電子入札システムにより交付する。交付期間は平成27年9月
25日（金）から平成27年11月9日（月）までの土曜日、日曜日及び祝日を除
く毎日、9時00分から17時00分まで。ただし最終日は、9時00分から12
時00分までとする。

なお、やむを得ない事由により、上記交付方法による入手ができない入札参加希
望者に対しては、記録媒体（CD-R等）を（1）に持参又は郵送もしくは託送
（書留郵便等、記録の残るものに限る。）することにより電子データを交付するの
で、上記（1）にその旨連絡すること。持参による場合は、（1）に記録媒体を持
参すること。郵送等による場合は、（1）に記録媒体、返信用の封筒（切手を貼
付）、入札参加希望者の連絡先が分かるものを同封すること。受付期間は、平成
27年9月25日（金）から平成27年11月9日（月）までの土曜日、日曜日及
び祝日を除く毎日、8時30分から17時15分まで。ただし最終日は、8時30

分から12時00分までとする。

(3) 申請書及び資料の提出方法、受付期間及び受付場所

- 1) 申請書及び資料は電子入札システムで提出すること。ただし、やむを得ない事由により、発注者の承諾を得て紙入札方式による場合は、次の受付期間及び受付場所に郵送又は託送（書留郵便等、記録が残るものに限る）するものとし、持参又は電送（ファクシミリ）によるものは受け付けない。

なお、申請書及び資料が3MBを超える場合の提出方法については、入札説明書による。

①電子入札システムによる受付期間：平成27年9月25日（金）から平成27年10月19日（月）までの土曜日、日曜日及び祝日を除く毎日、9時00分から17時00分まで。

②郵送等による受付期間：平成27年9月25日（金）から平成27年10月19日（月）までの土曜日、日曜日及び祝日を除く毎日、8時30分から17時15分まで。

③受付場所：関東地方整備局 甲武営繕事務所 総務課
〒190-0014 東京都立川市緑町3567
電話 042-529-0011

- 2) 電子入札における資料の受付票は、資料の受信を確認したものであり、資料内容を確認したものではない。

(4) 見積書の提出

積算に反映させるための見積書を下記に従い提出すること。

1) 提出方法

電子入札システムで提出すること。ただし、やむを得ない事由により、発注者の承諾を得て紙入札方式による場合は、次の提出期間及び提出場所に郵送もしくは託送（書留郵便等、記録が残るものに限る。）により提出するものとし、持参又は電送（ファクシミリ）によるものは受け付けない。

2) 提出期間

- ・電子入札システムによる提出期間

平成27年9月25日（金）から平成27年10月19日（月）までの土曜日、日曜日及び祝日を除く毎日、9時00分から17時00分まで。

- ・郵送等による提出期間

平成27年9月25日（金）から平成27年10月19日（月）までの土曜日、日曜日及び祝日を除く毎日、8時30分から17時15分まで。

3) 提出場所

関東地方整備局 甲武営繕事務所 総務課
〒190-0014 東京都立川市緑町3567
電話 042-529-0011

(5) 入札及び開札の日時及び場所並びに入札書の提出方法

- 1) 入札の締切日時は以下の通りとする。

入札の締切は、平成27年11月9日（月）12時00分

電子入札システムにより提出すること。ただし発注者の承諾を得た場合は関東地方整備局甲武営繕事務所総務課に持参すること。郵送又は託送による提出は認めない。

- 2) 開札は平成27年11月10日(火)10時00分 関東地方整備局甲武宮繕事務所総務課にて行う。
なお、落札決定の日は開札の翌日(土曜日、日曜日及び祝日は除く。)を予定する。

5. その他

- (1) 契約の手續において使用する言語及び通貨は、日本語及び日本国通貨に限る。
- (2) 入札保証金及び契約保証金
- ① 入札保証金 免除。
 - ② 契約保証金 納付(保管金の取扱店 日本銀行立川代理店(みずほ銀行立川支店))。ただし、利付国債の提供(取扱官庁 関東地方整備局)又は金融機関若しくは保証事業会社の保証(取扱官庁 関東地方整備局)をもって契約保証金の納付に代えることができる。また、公共工事履行保証証券による保証を付し、又は履行保証保険契約の締結を行った場合は、契約保証金を免除する。
- (3) 入札の無効
本公告において示した競争参加資格のない者のした入札、申請書又は資料に虚偽の記載をした者のした入札、及び入札に関する条件に違反した入札は無効とする。
- (4) 契約締結後のVE提案
契約締結後、受注者は、設計図書に定める工事目的物の機能、性能等を低下させることなく請負代金額を低減することを可能とする施工方法等に係わる設計図書の変更について、発注者に提案することができる。提案が適正と認められた場合には、設計図書を変更し、必要があると認められる場合には請負代金額の変更を行うものとする。詳細は現場説明書による。
- (5) 配置予定主任(監理)技術者の確認
落札者決定後、CORINS等により配置予定の主任(監理)技術者の専任制違反の事実が確認された場合は、契約を結ばないことがある。なお、種々の状況からやむを得ないものとして承認された場合の外は、申請書及び資料の差し替えは認められない。
- (6) 契約書作成の要否 要。
- (7) 本工事に直接関連する他の工事の請負契約を、本工事の請負契約の相手方との随意契約により締結する予定の有無 無
- (8) 申請書及び資料の作成に関する説明会は実施しない。
- (9) 入札書(施工体制の確認に係る部分に限る。)のヒアリングを実施するとともに、ヒアリングに際して追加資料の提出を求めることがある。
- (10) 関連情報を入手するための照会窓口 上記4.(1)に同じ。
- (11) 一般競争参加資格の認定を受けていない者の参加
上記2.(2)に掲げる一般競争参加資格の認定を受けていない者も上記4.(3)により申請書及び資料を提出することができるが、競争に参加するためには、開札の時に於いて、当該資格の認定を受け、かつ、競争参加資格の確認を受けていなければならない。
- (12) 2.(5)の施工実績が「国土交通省地方整備局(港湾空港関係を除く。)」における場合において、当該施工実績が当該者のものと確認できない場合は、当該者の施工実績として認めない。ここでいう、当該者のものと確認できない場合とは、合併及び会社分割等における「一般競争(指名競争)入札参加資格の再認定(又は

新規の認定)」を受けていない事、若しくは、再認定（又は新規の認定）時に実績の承継が認められていない場合を指す。

(13) 詳細は入札説明書による。